

令和元年度美術刀剣製作技術保存研修会 刀職技能訓練講習会の部 実施報告

長船刀剣博物館に会場を移して、10年以上経つ刀職技能訓練講習会も、令和の新たな時代を迎え、新たな気持ちで再出発いたしました。本年度33回目となる講習会の模様を以下にご報告します。

講習会は、本年も柄下地・刀装金具の二部門同時開催方式で行いました。講習テーマは柄下地が「柄下地と絞着の関係」、刀装金具の部が「刀装の鏝の制作」でした。例年通りの実践重視の方針の下、少数精鋭での技術習得に

励んでいました。6月20日の講習会初日には開講式が挙行され、備前長船刀剣博物館の白鬚一館長から、本講習会への歓迎の言葉と技術習得の重要性に関するお話をいただきました。

本講習会は、研修生制度を設けず、講習生は等しい条件の下、技術錬磨に励むことが出来ます。加えて4日間制をとっていることで、短期ながら十分な研鑽を積むことができ、参加者は毎年多くの収穫を得て帰路に着いています。さらには、若手の参加も目立ち、若さの台頭も本講習会の近年の傾向として指摘できることでしょう。

ものづくりの基本姿勢と基本思想を身をもって体験し、その涵養につとめ、さらなる技術向上のもと、その成果を存分に発揮できることを願ってやみません。



開講式 白鬚館長



柄下地の部 三合講師



刀装金具の部 講習会会場



刀装金具の部 羽川講師

刀装金具の部 宮本講師補助



閉講式 三谷講師の講評



最終日の6月23日には閉講式が行われ、各講習生に受講証書が手交され、三谷講師からの講評がありました。

講師の先生方におかれましては、大変ご多忙の中、熱心なご指導を賜りました。

また例年通りの破格の条件で宿舍を提供していただいた「西大寺グランドホテル」の皆様、講習会の実施にあたり数々のお骨折りをいただいた備前長船刀剣博物館の職員の方々には、この場をお借りして御礼申し上げます。

実施日

令和元年6月20日(木)～6月23日(日)

〈刀装金具の部・10名〉

京都府 松田那由太

講師

〈柄下地の部〉 柄巻師 三谷 修史

〈刀装金具の部〉 白銀師 羽川 安穂

講師補助 白銀師 宮本 恒之

受講者

〈柄下地の部・5名〉

兵庫県 兵庫県 小形 純子

熊本県 古賀 範介

山口県 中山 恒久

岡山県 橋本 幸律

富山県 五十嵐 結

兵庫県 石川 雄司

岡山県 伊藤 桂子

京都府 上野 宏樹

岡山県 片山 重恒

東京都 武田 典明

岡山県 時枝 佳代

愛媛県 三島 幹則

神奈川県 武藤 健

広島県 村上 弘賢

令和元年度美術刀剣製作技術保存研修会

刀剣研磨・外装技術研修会ならびに鍛冶研ぎ研修会開催

刀剣研磨外装技術研修会ならびに鍛冶研ぎ研修会は以下の受講生を迎え、本年もつつがなく開催されました。研修生は以下の通りです。

◎特別研修生(6名)

京都府 赤川 裕美

鳥取県 柏木 良

東京都 林 義仁

群馬県 細村 正勝

イギリス Leslie R Stewart

ロシア Semenchuk Sergey

○研修生(2名)

三重県 黒田 充弘

宮城県 三浦 弘貴

◇聴講生(8名)

長野県 岩村 茂孝

岐阜県 鈴木 勇

千葉県 田中賢治郎

東京都 鶴田 一成

北海道 中野 由唱

青森県 二唐奈夫樹

神奈川県 法城寺澄鐵

兵庫県 米倉 晴義

◎特別研修生(2名)

東京都 石丸 栄太

大阪府 水野 淳

○研修生(1名)

埼玉県 山口 秀雄



研磨の部 熊井講師



研磨の部 河本講師



研磨・鍛冶研ぎの部 閉講式



鍛冶研ぎの部 高見講師

白鞘の部(3名)

○研修生(1名)

宮城県 今野 利幸

◇聴講生(2名)

新潟県 北場 勝広

新潟県 佐久間保男

柄前の部(7名)

◎特別研修生(1名)

ロシア Semencluk Sergey

○研修生(3名)

福岡県 久保謙太郎

神奈川県 平山 直弥

神奈川県 矢倉 聡一

◇聴講生(2名)

東京都 鶴田 麗子

愛知県 山口 和義

白銀の部(7名)

○研修生(1名)

東京都 佐藤 周

◇聴講生(6名)

富山県 五十嵐 結

京都府 上野 宏樹

神奈川県 岡村明日香

東京都 武田 典明

東京都 中村 晋也

神奈川県 武藤 健

えしました。

各部門の講師には左記の方々をお迎

えしました。

研磨の部 河本 光誠

熊井 光徹



外装の部 開講式



外装の部 開講式 柴原専務理事挨拶

白鞘の部 廣井講師



柄前の部 飯山講師補助



柄前の部 久保講師



白銀の部 宮本講師補助



鍛冶研ぎの部 高見 國一

白鞘の部 廣井 章久

柄前の部 久保 純一

講師補助 飯山 隆司

白銀の部 羽川 安穂

講師補助 宮本 恒之

両国で2回目となる研修会は、本年も前半は「刀剣研磨鍛冶研ぎの部」、後半を「外装の部」として双方とも3日ずつ行いました。

日程は7月29日(月)から31日(水)までを前半として行い、8月1日(木)から3日(土)までを後半として、これを設定しました。会場は刀剣博物館一階講堂を使用しました。

白銀の部講評 羽川講師



開講式はそれぞれ初日の午前9時30分

分から行われ、柴原専務理事が挨拶し、本研修会は公益財団法人としての重要な事業であること。また、招聘した講師はその道の第一人者であり、普段は学べない多くのことを学んでほしいこと、3日間という短期集中の場ではあっても、この時間を精一杯活かして欲しいことなどが話されました。

本研修会は前回と同じく少数精鋭の方針をとり、非常に密度の濃い内容となりました。研修生は、普段接することのできない講師から、多くの技術を吸収し、真摯に取り組んでおりました。閉講式はそれぞれの部門の最終日、

外装の部 閉講式 飯田事務局長挨拶



午後2時から行われました。飯田事務局長による挨拶及び受講証書・修了証書授与がありました。また講師の先生からは、この研修の成果を日々の仕事に活かし、そしてなによりもコンタクトに出品し、互いに切磋琢磨することの重要性などが講評として話されました。

代々木から両国の地に移転して2回目の研修会であり、会場や設備の変化から以前とはまた違った進化を見せた研修会になりました。これはひとえに講師の先生方と真摯な研修生によるものであると思います。今後もこの伝統ある研修会を「少数精鋭」で続けていきたいと思っております。

講師の先生方には、ご多忙と不安定な気候の中、大変熱心なご指導をいただきました。衷心より厚く御礼申し上げます。

なお本年度で3年間の研修終了者は以下の方々と、特別研修終了証・研修終了証が授与されました。

◎特別研修終了者

研磨の部 林 義仁

Leslie R Stewart

Semenchuk Sergey

鍛冶研ぎの部 石丸 栄太

○研修終了者

柄前の部 矢倉 聡一